

令和2年度 第2回苫小牧市環境基本計画推進会議会議録

令和2年10月5日(月) 10:00~11:30

市民活動センター3階会議室

発言者

内 容

事務局

定刻となりましたので、只今より令和2年度第2回苫小牧市環境基本計画推進会議を開催いたします。

会議に入ります前に、新たに就任いたしました委員を環境保全課長よりご紹介いたします。

環境保全課長

おはようございます。

委員の就任についてご報告させていただきます。

齋藤忠勝様のご逝去によりまして委員の席が空白となっておりますが、一般公募を行い河村義正様が本年4月1日より本会議の委員に就任されました。

次に、委員の交代についてでございます。苫小牧市町内会連合会理事でありました猪股瑞彦様が役員改選のため本年5月15日をもって退任され、後任としまして新たにご推薦いただきました岩田典一様が6月24日をもって本会議の委員に就任されました。任期としましては令和3年3月末までとなっておりますので、よろしく願いいたします。それでは、岩田委員の方から自己紹介をお願いいたします。

岩田委員

只今ご紹介いただきました、町内会連合会から派遣されました岩田典一と申します。こういった会議は初めてなものですから、いろいろ勉強させて頂きたいと思っております。よろしく願いいたします。

環境保全課長

ありがとうございました。私からは以上です。

事務局

この後の会議の進行につきまして、会長よりお願いいたします。

会 長

皆様こんにちは、本日の会議は 11 時 30 分までを予定しておりますのでご協力よろしくお願いします。

※本日は、所要のため～委員欠席との連絡を受けております。
それでは、次第に沿って進めて参ります。

まず、次第 2 (1) 苫小牧市環境基本計画の令和元年度の進捗状況について、事務局からお願いします。

事 務 局

～第 3 次環境基本計画の令和元年度の進捗状況について報告～

会 長

ありがとうございます。只今事務局から令和元年度における環境基本計画の進捗状況についての報告がありましたが、皆さんの方からこの件について何か質問等がありましたら、お示してください。

今のところ、基本計画に掲げた目標は達成されたか否かについては、◎・○で記載されています。これを見ると概ね◎とすることである訳ですが、私たちは推進委員ですので、出来たか出来ていないのかではなく、環境に対して推進されているのか、つまり市民が行動を起こしたか、あるいは起こさなかったのか、何か変化があったのか、なかったのかが推進の部分だと思うのですが。推進委員として、この結果を見てどのように判断されるのかという部分を委ねられた私たちとして、ご意見いただけたらと思います。

もう少し細かいところでは、意識の高揚を図られたかは、やった、やらないでは十分達成されたことになる。しかし推進という言葉に掛けると、普及した結果その人が行動あるいはアクションが社会に示されたのかは、たぶん推進の役割になっている、そう言う視点で見ただけだと、もう少しこれらの結果が深追いできるのかと感じますが。

A 委 員

A と申します。

62 項目の内 60 項目が施策達成とすることで、◎が打たれております。効果のところを拝見いたしますと、文字による記述が大変多い点に関し、実際に具体的な効果のところ、数値の指標などを盛り込んで記載をしていただけると少しは分かりやすかったのかな、具体的になるのかなと言うふうに思いますの

で、全体的な印象として数字が書かれている部分はあるんですが、意識作りですとか、環境作りが図られましたなどのところなど具体的にどのようなものがあったりなど、具体例を記載していただけたらもう少し分かりやすい、どのような効果があったのか見えやすくなるのではないかと思いますので、一点だけそのところ話をさせていただきました。

会 長

例えば、公害の部分では数値が出やすいはずですが、文字の並びでは理解し兼ねることもありますので、具体的にお示しいただけませんか。事務局としては出すべきだと思いつつ、それを数字を持って見せることはなかなか難しいのではないかと思います。もし、A 委員の中で変更点などがあれば、思いつくままお示し頂きたい。

A 委員

たとえば、1 頁の 3 番の公害苦情 40 件とありますが、すべて同じ対応ではないと思いますが、40 件の内訳として、こういったケースはこのような対応で終わったとか、まだ対応が完結せず継続中であるとかもう少し詳しく書いていただけたら、内容を踏み込んで理解しやすいと思います。

会 長

いろんなケースがある中で、対応の仕方などももう少し追跡した形での記載内容にした方が良いと言うことだと思います。

H 委員

町内の清掃活動について、先日、町内の公園で個人的に落ち葉拾いの清掃をしていた方が居たんですが、ごみ袋などご自身で用意されておりました。町内の清掃活動については、ごみ袋などは無料で提供されていると思うのですが、個人で公共的な場所の清掃をする際にもごみ袋が配布されることを知らない一般市民の方がいるんだと凄く思いました。各町内会のごみ拾いとか、年何回か実施されていると思いますが、町内活動の時は無料でごみ袋の配布が当たり前のようにありますが、それ以外の時は自分で用意した上で清掃活動をしている状況などを考えると、町内活動の時にでも無料配布について周知するようになっていただければ、ごみ袋の無料配布があることによって、普段から気軽に公園等の清掃活動に繋がるように思いました。

会 長

今のご意見について、二つのポイントがあると思います。

一つは、普段からそのような清掃活動をやっている方が居て、H委員が見ていて、ごみ袋の無料配布が繋がったかどうかは分かりませんが、自主的あるいは自律的に活動をしている方が増えてきていることが、行動変容の現れであると思います。

二つ目は、私たち委員がそういった方たちをもっともっと見出し、普段の生活の中でそういった方が居るんだといった認識を持った上で、ごみ袋配布の声掛けや、活動自体がその人だけで終わらせないようにするのが、推進委員として推進する部分の役割であると思います。

今、ご意見を伺って私たち委員がやるべきことは、この二つをもう少し意識した上で推進していく必要があると感じたところです。

私たち委員としては、事務局がこれだけの資料を作って支えてくれたことに対し、敬意を払いこれらを今後に生かすという立場をもっともっと認識していかなければならないと感じております。

今ここで、十分に目を通した上で何かを感じたり、意見を述べることも難しいことも時間の関係上理解できますが、今後委員としての活動が続く限りは、先ほどの意見のように広げて行く、あるいは具体的な数値で行動変容を価値化していくといった手法を獲得するようなところを継続してやっていくべきと感じたところです。

議題（1）について、終わらせたいと思いますが、事務局として、この資料を整理していった上で感じた点がありましたらお示しください。

環境保全課長

ご意見いただき、ありがとうございます。

ご発言の中で、具体的な数字の記述と言うことで、出来るものと出来ないものがございまして、今後におきましては出来そうなものにつきましては、極力沿うようにしていきたいと思っております。

40件の苦情に関しましては、一つ一つの詳細については難しいところがありまして、もう少し分かりやすい形で記載していきたいと思っております。

落ち葉拾いの清掃活動に対するごみ袋の配布につきましては、ゼロごみ推進課にお伝えしたいと思っております。

会 長

表現上、数値に表しきれないものはエピソードとか出来事といったものを示

すしかないのかと思います。H 委員のご意見のように、このような方を見た的な表現もあっても良いのではないかと、私自身こういった場面に現れても良いと感じております。

市民の皆さんに示す要素として、あっても良いと思いましたので、委員の皆様もアンテナを張っていただけたらと思います。

議題（1）について終わります。

次、次題（2）令和2年度事業実施報告について事務局から説明をお願いします。

事務局

～令和2年度事業実施報告について、本日までに実施済み事業を報告～

会長

ただいま事務局より3件の報告がありましたが、ご意見、感想等がありましたらお示し頂きたいと思っております。

B 委員

今回「せせらぎスクール」に参加させていただきました。

私自身、川の水生生物採取は経験がなく、お手伝いということで参加いたしましたが、水生生物の多さに驚きました。

この事業の取組みについては、非常に有意義であると感じましたので、小学校での授業に取り入れることが出来たら、環境問題への興味を持ってもらう切っ掛けにもなり、川の水の大切さに関心を持ってもらうことによって、水質の環境保護につながり、将来的に市民に還元出来ると感じました。

ありがとうございました。

会長

ありがとうございます。

今の話をお聞きし感じられることは、この事業は子供向けだけではもったいない、大人は川で魚を捕ったことがあるか、水生昆虫を見たことがあるかと言えば無い大人がほとんどで、それを子供だけに絞ってしまうのはもったいないのではないかと。大人が参加するにあたり、タイトルを「せせらぎスクール」が良いのか「漁業体験」が良いのかは別にして、全市民対象としても価値がある事業であると聞こえました。

学校の授業に取り入れるとなると、推進会議とは別に大きな壁がありますので、

中々困難なところがあると思います。

他にご意見はありませんか

H 委員

「せせらぎスクール」の中で、覚生川の水質調査をしてきれいな川であるとの結果が得られたとのことですが、調査と言うのは数値を持って判断基準としているのですか。絶対値評価を基に判断されているのですか。

環境保全課長

調査については、簡易のパックテストというものを使用し、水質により色が変化していく試薬を使用しており、その色により判断しております。

H 委員

それであれば、調査としては良いのですが、例えば汚い水との比較があればより覚生川がきれいであるんだなと言うところに行くと思いますし、より感動が大きくなると思います。

環境保全課長

水の比較については、ウトナイ湖の漁業体験でウトナイ湖と近くの川から取水した水で行っております。

会 長

個人的な話をすれば、この様な活動の専門として活動している立場からお話しすると、覚生川はきれいな水であると分かって、だから何なんだって言う話なんですね。そこからさっきも言った、アクションが生み出されなければこの活動の意味がありません。気づきから責任ある行動へというところまでを持っていくことがこれらの活動のミッションですので、きれいであることが分かったからこれをより持続させるか、あるいは隣にあるきれいではない川に対してアクションを起こすのかというところまで、この活動が響いてこそ推進させたということになるので、その後のそう言ったところを引き詰めていく。コロナ禍の中でもこれだけ人が集まってくれていると言うことを、評価しつつそれであればこそ、次につながる行動に導くよう持っていければと思っております。

環境保全課長

「せせらぎスクール」の目的、何で親子でやっているのかというところなん

ですが、子供だけでも良いのではないか、そこできれいな川に触れて、水生昆虫もきれいな川でなければ生息できない虫たちなので、採取した虫たちのことを考え家に帰った後に食事の時にでも家族でお話をしていただければ、この環境を維持する、より良くするにはどうしたらいいのかを話し合ってもらえればと言った目的もあり、例えば川の上流にごみを捨てないとか、そのような、小さなところから始まって結果、家族間で環境について考えていただければと思っています。

副会長

「せせらぎスクール」については、数回参加させていただいておりますが、今回は気候にも恵まれ、たくさんのお子さんの参加をいただきました。

今、会長の話されたことに関連するのですが、参加された子供たちには、今日体験したことを一人でも構わないので友だちに伝えて欲しいと、あいさつの中でお話しさせて頂きました。環境保全課長が家庭での話題にして欲しいと言ったことも含めて、子供たちにお話しました。

今回気になったことは、限られた場所を借りて実施しましたが、当日アルテンを利用していた市外の親子が参加者といっしょに採取などをしたため、今、ここで体験学習をしているので少しの間待つようお願いはしましたが、中々聞き入れられず苦慮しました。

もう1点は、モーターを持ち帰っていただけたことが非常に良かったと思いました。昨年はモーターが高額と言うこともあり叶いませんでしたが、今回は持ち帰ることによって家で改めて触れることで興味を持ってもらうことができると思いました。事務局も工夫をしたことで、良い体験が出来、喜んで帰られたと思います。17万市民の内の30人かもしれませんが、少しずつでも環境の大切さが広がっていくと思いますので、今後も続けていただきたい事業と思っております。・・・以上です。

会長

ありがとうございます。

今の話の中で、私たちが議論すべきところは参加者以外の方が入ってきた時どうするか。この催しは市民限定ですと言って認めないか、もしくは認めるのか、交流振興、関係振興、増大という言葉もありますので、これを切っ掛けにして苦小牧のPRが進められると言った考え方もある。例えば風力発電機は申込参加者の分しかない、君には当たるけど、君には当たらないよと言ったこともある。この辺をどう整理できるかだと思います。

環境保全課長

アルテンから借りている川のエリアですが、使用料を支払っている占有使用ではないんです。キャンプ場を利用する複数の方がいる中での事業のため、推進会議としては募集を募り、参加申込をされた方を対象に実施する。これが基本スタンスではあるんですが、ただ、アルテンを利用している方が来ても「ダメ」とは言えないとは、正直思っております。

私たちの事業に参加にするとすることにはならないと思いますが、その場に入ったら「ダメ」排除することは考えておりません。

会 長

事業の趣旨を伝えた上で一緒にやる、事務局としてはそのようなスタンスがスマートになるように感じます。

私自身参加できていないのですが、覚生川もウトナイ湖も含めてタイトルは別にして「せせらぎスクール」ではないのかと感じました。西側、東側両方の水を調査して、川の生態系を観察しましょう、「せせらぎスクール」①が覚生川、②が魚類が生息するウトナイ湖、③をやるとしたらきれいな水質ではないところにしましょう、と言ったようなアクションがあると「せせらぎスクール」らしくなるのではと考えますが、いろんなアイデアの中からアクションに繋げる要因になると思いますが、その方法はとなると、事務局を悩ますことにはなりますが、事業に対しては各委員からの上がってくる要望を踏まえて実施に繋げることになると思います。

環境保全課長

ウトナイ湖「漁業体験」については、環境生活課が主体に事業を展開しております、環境保全課はその事業に乗っかっている関係で止めることはできないんです。

会 長

「漁業体験」を止めるという意味合いではないんです。

「漁業体験」の中に「せせらぎスクール」を含め、それぞれ看板を出した中で、時間割を持って実施するという意味です。

時間が押しておりますので、次の議題に移りたいと思います。

次題 2- (3) 令和 2 年度事業実施予定事業について事務局から説明をお願いします。

事務局

～令和2年度実施予定の事業について説明～

会長

ありがとうございます。

今後の実施予定の内容につきまして、説明していただきました。

これからの活動でありますので、変更点などがありましたらお伺いしたいと思います。

このままの実施と言うことでよろしいですか。

次題2-(4)令和3年度事業計画案について事務局から説明をお願いします。

環境保全課長

企画案につきましては私からお話をさせていただきます。次年度に向けての予算要求を見据え、委員の皆様には8月上旬に令和3年度実施事業の企画案につきまして提出をお願いしておりました。今会議におきまして、提出のありました企画案に基づき協議をお願いし、その結果をもって予算要求資料といたしたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

提出案件については、事務局担当より説明いたします。

事務局

それでは、提出された企画案についてご説明いたします。当初5件の案が提出されており資料としてご案内しておりましたが、追加案件がございまして計6件となっております。当初の5件の内新規が2件、これまでに実施されている事業が3件でございました。

推進会議における実施については、スケジュール等を考慮し年間で5件程度と考えているところです。

まず、No1のF委員から提案の「被災木（山桜）再利用による燻製作り」についてですが、参加者により簡易な燻製窯を作成し、被災木（山桜）を燻製チップに加工したものを使用するというものです。資源の再利用などを学ぶ内容となっております。

次に、No2～4については、副会長からの提案ですが、この3件については、例年実施されている事業になっておりますので説明は省略させていただきます。

す。

最後に、No5のA委員からの提案ですが、体験型環境保全イベントを動画配信するという提案です。これは推進会議において実施している事業風景を撮影し、ホームページ等に配信するというものです。直接、事業に参加しない市民の方に、幅広く環境保全について理解を深めてもらう内容の提案となっております。

また、追加案件が会長より提出されておりますので、概要につきましては会長から説明を受けたいと思います。

以上の提出案件について、ご協議をお願いします。

会 長

締切り間に合わなく、本日の提出になりましたことお詫びいたします。

私の案件は、これまでイコロの森などで「秘密基地作り」や「森林整備」事業を、苫東和みの森で実施したらどうかと言う案です。

苫東和みの森は全国植樹祭が開催されて、平成19年に非常に多くの樹木が植樹されました。それから10年以上が経過し間伐の時期に入っております。太さが500mlのペットボトル程になり、丁度子供たちが手ノコで伐って刈りやすい状況にあります。一つ一つ手で植えたものを無に伐るのは如何なものかと言った意見もありますが、これ以上伸ばすと全部が駄目になってしまうので適度な間伐が必要であると言う判断は、林学の専門から言えることです。それを子供たちが伐って、運び出してイコロの森でやるような秘密基地を作って遊ぶことを通して、最後に薪であるとかウッドチップなどに替えて整備を進める活動をここに書きました。

この活動はすでに、推進会議が主催していただいていることなので技術的、体制的なもののモデルが実証されております。

かつ、苫小牧教育研究会環境公害教育部会の先生たちの協力を得て、学校の授業でこれを3、4回実施しており学校のカリキュラムにどう取込むか。また、バス使用料やスタッフの報酬などをどのように準備するのも実証しモデルを作りました。

今まで、イコロの森でなされていた活動を数十人の一回のイベント的に終わらせるのではなくて、学校の授業に組込んでいけないかと言う案です。

そうすると、予算はどうするのかということになるのですが、和みの森の市の担当課の緑地公園課にも提案をし、令和6年度から森林を保全するため（間伐費用、人材育成、森林環境整備等）森林環境税が徴収予定とされており、国

税ではありますが、森林環境譲与税が人口に応じて市町村に案分されることとなっております。令和元年から街には落ちてきているお金にはなるのですが、そういったものを活用すれば、不用意にお金を用意するのではなくて、実務的な予算の確保をしつつ、子供たちのバス代や、消耗品、スタッフの報酬などを精算できると考えております。

そういったものを、今まで積み上げてきた推進会議で培ったモデルを点から線、面に替える意味合いを込めてこう言った企画書を書いてきました。

苫小牧の産業としては、漁業や第二次産業等たくさんありますが、森林資源を活用した、しかも人工林ではなく雑木と言われる里山の活動をブランド化していくことは、環境保全、特に国としての新しいブランドが作り出されて良いのではないかと考えた点も持ち合わせています。

長くなりましたが、企画書の概要の説明となります。

ただいま説明がありましたことに関し、事務局として実施する方向で考えた場合を想定し何か意見があれば伺いし、その後に委員の皆さんからの意見をお聞きしたいと思います。

環境保全課長

事務局としての考えを述べさせていただきます。

お手元の資料 3-2 令和 2 年度実施事業の内、No5 以外は例年行っており実施可能であると考えております。そこで、資料 3-1No1 の F 委員からの「被災木（山桜）再利用による燻製作り」についての提案ですが、毎年実施している森林整備体験に組み込むことが可能でありましたら、同時開催できるものと考えております。

本日、会長からも次年度の事業提案がありましたが、私どもとしましては、低予算で実現可能で、なおかつ、影響力のある事業の実施を目指したいと考えておりますが、後程、委員の皆様からのご意見を伺いたいと思っております。

次に No5 の A 委員からの提案についてですが、以前から環境保全課でも検討しており、撮影機材を確保する予定となっております。それらが揃えば実現可能だと思います。配信方法は主にユーチューブへのアップロードが考えられますが、市公式のフェイスブックや環境保全課のインスタグラムなどを活用して、広く拡散することが可能と考えております。ただ現状におきましては、映像のアップにつきましては個人情報とのからみがありますことから、慎重に検討を重ねる必要があると考えます。

以上です。

会 長

ただいま事務局としての意見がありました。

配って頂いた資料の中の燻製チップの件については、「森林整備」の中にも含めることが可能であるかと言う点と、動画の配信なども慎重にやることは必要ですけれども、技術的には可能であるということですね。

只今、事務局からの意見を踏まえて各委員からのご意見を伺いたいと思います。

副 会 長

会長が提案された和みの森は木道を作った所ですね。

会 長

その所だけではありませんが、そこも含めてということです。

来週になりますが、ゼロごみ大作戦を兼ねて、環境保全課でバスを出して頂いて、10月17日に実施される和みの森での活動も予定されております。

動画について、他の取組みで配信しているのですか。

環境保全課長

自分たちの撮影を配信することはまだなんですが、事業を行っている中で自分達が事業のPRで配信するものについては問題ないと思いますが、一般参加の事業については参加者の方も写りますし、検討が必要と考えます。

了解が得られれば良いとは思いますが。

会 長

了解を得る方法は、事前の申し込みの段階で動画撮影が想定されると言った周知、二つ目は、当日の受付の場で伝える方法があると思います。

環境保全課長

ケーブルテレビが来られる場合は、事前に取材申込みがありますので、参加者には、当日知らせることは当然できる範囲ではあります。

会 長

現状の方法としてはそれが妥当だと思いますし、動画配信についてもどこまで効果が生まれるかは別として、やらないよりはやって周知する方法が頼みの綱かもしれません。

環境保全課長

ユーチューブについては、事業とは別にできることなので、よろしいかと思
います。

会 長

著しく予算を取られるということではないと思います。

環境保全課長

機材の購入ぐらいです。

会 長

山に携わっている立場としては、1 番のチップを使用する事業は親子森林整
備体験に含めることはできる。別建てではなく伐採した枯れた木など、最後は
燃やしてしまうと言う場面でこれを使うことが出来るので、重ねることで実現
可能であると思います。

他にご意見ありませんか。

「せせらぎスクール」は、ウトナイ湖では実施されていないため前例がない
ので、先程の議論がここにそのまま反映されるようになれば良いと思います。

A 委員

「せせらぎスクール」、「漁業体験」のイベントを実施されたということで、
昨年までの状況が違い、コロナ禍のなかでの開催で参加したいのだけれどもコ
ロナ含めての感染への懸念があって、参加しづらいといった状況も想定される
と思いますが、実際、応募状況含めて昨年度との状況の比較を確認させていた
だきたかったのですが。

環境保全課長

参加人数ですが、例年 60 人で募集していましたが、今年度は親子 30 人の募
集として実施しました。例年好評をいただいております、早い段階で定員と
なった状況にあります。コロナ禍の中でも例年と変わらない状況でした。

A 委員

応募に関しては、ためらいがあったという状況ではないと言うことで理解し
てよろしいですか。

環境保全課長

状況としては、そのように理解しております。

A 委員

動画配信の提案をさせていただいておりますが、実施している事業について、内容も充実しており、参加者の満足度も非常に高いイベントですが、やっぱりコロナの関係もあり参加しづらい方もいると思ひまして、良い取組みで中々体験出来ることではないので、直接体験できる方が伝わりやすいとは思ひますが、より広く伝わるということに関しましては、動画配信も一つの方法であると思ひ提案させていただきました。

会 長

参加者を半分にしたから、2回実施することにはならない。また、半分にせざるを得ない事情がある以上、動画で体験していただきたいのが率直なところですね。

代替えがあるとかは別として、今現状を考えた場合動画配信に頼ることも必要と思ひます。不特定の方を対象にする方法は非常にやりづらい、視聴される方の特性も分からないがゆえに、怖いと言った部分もあり、事務局としての正直なところだと思ひます。

いろいろなところをゴリ押しする訳ではないのですが、不特定の市民を対象に募集するよりは、私としては学校であるとか団体など特定できるところに声を掛けていくことが、このリスクを避ける一つの方法なのかなと言うふうに感じています。これは特殊なので市として一般市民対象でないと言われるかもしれませんが、そこはいろいろな組織のあり様もあるので、今後の活動の手段なのかとも感じたところです。

逆にA委員の話をお聞きすると、コロナ禍の中でも事業を提示したいと言った強い思いも見えてきます。

こちらがこう対策をしますよと伝えた上で、誓約書を書くわけではないのですが、それ以上のところで、皆さん何とかお互いに迷惑がかからないようにしまししょうね、と言いながら来ていただくことが受付の中でも必要であることのようにも思ひます。迷惑が掛かって負担にはなったけれどもそのようにするのかなと感じます。

D 委員

私は会長の意見と同じですが、一人でも多くの市民の方に参加していただきたいと思ひますが、やはりコロナ禍の状況などに不安があつて、人数制限があ

ったり、3密を避ける、マスク着用、検温など最低限のルールを踏まえて、これで大丈夫だと参加者自身が、今何が出来るのかと言うところから始まって、事業を理解していただいて、親子で楽しむことができる場の提供できる何かということで、私たちは今、手探りで探していて、すごくいい企画が6つ出ているので、最低限のルールを守りつつ実施できたらと思っています。

会 長

推進会議の活動についてはいろいろな制約がある中で、今後何があるか分かりませんが、推進する立場で、見出して行くのかなと思いますし、お互い企画する側も参加する側も一緒だよなって気持ちでこういう活動が作ればいいのかと思います。

副 会 長

D委員の発言のとおりと思います。具体的なことで申しますと「漁業体験」で募集人員を30人で開催しましたが、ウトナイの漁業組合の婦人部の方々のご協力による試食会は中止となりましたが、参加者の皆様が納得しておりました。内容が昨年から変更になったにも関わらず、すごく楽しい時間を共有され、喜んで帰って行かれました。参加される方は、自分ができる範囲での参加を楽しんでいたと思います。コロナ禍の中でも意識をしっかりとって参加されている様に感じました。

怖がって一歩下がるか、できる範囲で行動に移すのか人間の知恵と思うので、会長やD委員の意見に賛同したいと思います。

会 長

やれる環境は、とても大変なのですが、かといってやらないという意味ではなくて、その状況で何かできることをやっていきたいと思いますというのが今の流れです。

そこでチップを使って燻製を作るのも、食材を全部事務局が用意するのか、私のアイデアとしては持ち込んでいただきたい。

それは、各個人の責任で焙る、できた燻製をお裾分けすると言ったことも、私たちが推し進めることもできない、参加される皆さん個人が考えていく中でとしか言えないです。

それでは、各委員からのご意見を踏まえ令和3年度実施事業について、事務局一任ということにしたいのですが、いかがでしょうか。・・・(承認を得る)

事務局側もよろしいでしょうか。

環境保全課長

ただ今会議に承ましたご意見をベースに考えたいと思います。

実施事業について、昨年度とあまり変わった内容ではありませんが、ご了承願えればと思います。

会 長

自分としては、環境保全課と言うよりは苫小牧市に提案したという考えですので、横断的に、この推進をより強化するためにはさっき言った通り、もしくはイベントがやりづらいこの状況も、この中に踏み込んでいくっていうのは、人、お金、情報が全部そろった状態なので、私としては強く推し進めたいと考えます。

次第最後、その他ですが、何かありませんか。

なければ、予定時刻となりましたので、終了といたします。

ご協力ありがとうございました。